2026 年 08 月 15 日

（臨床研究に関するお知らせ）

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科で、大腸癌肝転移にて手術歴のある患者さんへ

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本施設の倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用させて頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

１．研究課題名

CT 画像診断支援 AI を用いた大腸癌肝転移の予後予測モデルの開発とその実用性の検証：多施設共同後ろ向き観察研究

２．研究代表者

国立病院機構大阪南医療センター消化器外科　上野昌樹

３．当該施設における責任者

消化器・総合外科　講師　安田里司

３．研究の目的

大腸癌肝転移症例において、画像診断 AI システムを利用し、肝切除前 CT 画像から予後予測を可能とするモデルの構築を目的とします。

４．研究の概要

（１）対象となる患者さん

2020 年 1 月から 2023 年 12 月までに大腸癌の初回の肝転移症例で、切除治療を実施した患者を対象とします。

（２）利用させて頂く情報

診療録より、問診・身体所見・採血データ・画像所見・手術所見・病理所見の情報を利用します。また、治療前 CT 画像データも利用します。

（３）方法

収集した情報は、患者を特定できる個人情報は削除された状態となり、国立病院機構大阪南医療センターに集約されます。画像診断支援 AI システムを用いて、治療前 CT の腫瘍画像と、臨床データとの紐づけを行い、データセットを作成します。システム内の学習エンジンを使用して、画像学的な特徴量などから予後予測を可能とするモデルを構築できるかを検証します。構築が可能であることが実証されれば、さらに付加価値の付いた画像診断を提供することが可能となります。

５．個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者を特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者の個人情報が公表されることはありません。尚、本研究で利用した情報は、将来の研究において 2 次利用する可能性があります。その際は、再度倫理委員会の承認を受け実施しますが、本研究で取得した情報の将来の研究への利用を望まれない場合も、ご連絡ください。

６．ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除

外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

７．問い合わせ先

研究代表機関：国立病院機構大阪南医療センター 消化器外科
〒586-8521 大阪府河内長野市木戸東町２－１
研究代表者：上野昌樹
TEL：0721-53-5761　FAX：0721-53-8904
E-mail：masaki.ueno.am@hosp.go.jp

研究分担機関：奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科
〒634-8522 奈良県橿原市四条町 840
分担機関研究責任者：安田里司
TEL：0744-22-3051(代表)　FAX：0744-29-8863
E-mail：hi22zd@naramed-u.ac.jp